

保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 古賀貞雄 編集者 西尾 達

やったくー！春が来た!!



春につつまれて!!



ずーっと一緒だよ



どっちがキレイ?



もくちつき
ペンタノン



vol. 114
平成28年度 3号

熊本被災地視察研修報告	2
こどものえがお展	3
笑顔あふれる保育園	4、5
私が薦める絵本	6
叙勲、大臣表彰	6
養成校との意見交換会	7
リレー回想	8

【写真を提供していただいた保育園】
若草、どろんこ、あけぼの、ゆめの森こども園、豊庄（順不同）

「子ども・子育て新制度の問題点」はユーチューブ(YouTube)でご覧いただけます。
※PCだけでなくi-phone などのスマートフォンからも見る事ができます。

「新制度」の詳しい内容については
[ほいくせいど](#) [検索](#)
を、クリック!



特別園長研究委員会

熊本被災地視察研修報告

四月十四日真夜中の前震を皮切りに大きな被害を出した、熊本・大分地震で被災された保育園への視察研修を行いました。月に一度集まって勉強会や情報交換をしているメンバーのうち、二十三名が参加しました。

○御船町

『社会福祉法人南苑会 御船昭和保育園』

大きな揺れを感じた時点で、まず園を避難所として地域の方に開放されたそうです。その夜のうちに五十〜六十名ほど避難してこられたため、役場に連絡をし、自主避難所として登録をされました。その後も二十〜三十分おきに揺れがあり、十六日の夜中に本震がありました。地元消防団の要請で、橋向こうにある小学校等の避難所へ行けない地域住民を受け入れ、多い時で屋内一九九名、園庭には車中泊の避難者が十六台、合計二四〇名ほどの避難者がいたそうです。その七割ほどが高齢者と障がい者でしたが、その多くが卒園児やその保護者など日頃から園運営に理解ある方ばかりだったため、避難所の運営もしやすかったと言います。食事は避難し



「地域の方や行



てこられた方がそれぞれ役割分担され、調理室ではなく、ペランダのウッドデッキで炊き出しを行ったとのことでした。食材も各家庭の（停電中の）冷蔵庫等から持ち寄ることで十分に間に合ったそうです。日頃からの地域との深い関わりの大切さを感じました。

その後も余震が続き、とても保育ができる状況ではなかったため、役場から一週間保育休止の通達がきたそうですが、預けに来られた方数名の保育は行ったそうです。避難者みんなが親しかったこともあり、「みんなで生き延びよう」との意識がとても強かったとおっしゃっていました。余震も落ち着いたが、二十五日から保育再開との通達がきたため、避難者にもそれまでに家で生活できるように伝えられたそうです。みなさん協力的だったといえます。

○益城町

『社会福祉法人あじさい会 幼保連携型認定こども園 あじさい保育幼稚園』

政の方と連携によって、「と言われた沖田園長先生は、自分たちでできること、行政に頼むことをしっかりとその場で判断され、行動されることで、園だけでなく、園周辺の地域の方の生活まで守り抜いておられました。研修には前田理事長や園長先生方だけではなく、震災当初から園と定期的な話し合いながら協力して対応してきたという益城町職員の方も同席され、行政との連携の大切さを感じました。園長先生方も、有事の際に行政は対応に人が足りず、二十四時間体制であることや避難所の多さ



最後に何点か、被災後に災害対策について感じたことも教えてくださいました。地震の訓練では子どもに机の下に隠れるよう指導していたが、ほんとに大きな揺れがある時、子どもは机ごと動いてしまつて危ないと感じたそうです。

にも行けず、職員もなかなか園に来ることができなかったとお話されました。それでも園長先生は、園でいかに早く子どもを預かるか、をまず考えたそうです。子どもを抱えて働けない、後始末をできない、そんな保護者に貢献するために一日でも早い復旧を目指されました。それを大きく助けてくれたのがボランティアでした。片付けや倒れたピアノの処置等を手際よくしてくれ二十六日に保育再開できたそうです。また、被災をしたことで子どもたちは外から来た人な人たちの温かさを感じたと思う、とお話されました。園を再開してからも、子どもを抱えて被災された地域の方を少しでも元気づけたいと、お祭りなど大人も楽しめるようなイベントを園庭で開催されてきたそうです。子どもたちのパワーにもびっくりしており、家庭ではわからないが、園では元気に過ごしている、とお話されました。

また、避難グッズは園ではなく保護者に用意してもらおうと入れ替えも任せられることでした。水筒も、水ではなくゼリー状のものだとトイレに行く回数が減って良いそうです。防災頭巾は、当初は逃げるのが精いっぱいだし、子どもの顔が隠れてしまうという難点もある、とのことでした。どこかに逃げるとき二次災害を防ぐために身に付ける、という意味で現在は外の倉庫に置いてあるそうです。

その他にも、保護者への連絡は、スクールバスを運転している途中だったら、河川も近い、避難中ガラスなども落ちており普通の靴ではケガをするからどうするか。避難することが危険かもしれないし、何が一番良い判断なのか。かわからない、とお話されました。「他人事のように感じていたが、きちんと考えて行かなければと思うようになった」という言葉が印象的でした。

昨今、いたるところで大きな災害があり、私たちもいつ大きな災害に見舞われるかわかりません。そうした時の心構えと備え、地域や行政との協力体制の在り方を考えさせられる研修となりました。最後に、お時間を割いてこの視察を受け入れて下さった御船昭和保育園、あじさい保育幼稚園の先生方に感謝申し上げ、被災地の一日も早い復興を祈念致します。

「2016こどものえがお展」

～ 保育園で輝く こどもの写真がいっぱい!! ～



恒例となりました「2016こどものえがお展」が、去る10月26日（水）から30日（日）の5日間、天神ソラリアプラザ1階ゼファで開催されました。2008年にスタートした「こどものえがお展」も早いもので9回目となり、年々充実した内容になっています。また、2008年スタート当初からの来場者数は、今回の来場者約3,400人を合わせ36,000人超えとなり、「福岡市内の公立保育所・私立保育園の活動を広くアピールし、保育所（園）への理解を高める」というこの企画の目的が、市民の皆様にも広く認識されてきているのではないかと捉えています。



フォトコンテストの応募数540点から選ばれた写真100枚の展示と、応募作品全点のスライドショーは、みなさん足を止めて笑顔で熱心にご鑑賞されました。「かわいい～」「こんな瞬間がよく撮れたね!」「どの写真もいいね」などたくさんの方々からうれしいコメントをいただきました。また、「市民賞」には729票ご投票いただき、田島保育園の「わあ、かわいい～♡」に決定いたしました!ご投票、ありがとうございました。

保育園職員が子どもたちの発達や興味関心を考えながら心を込めて作った「手作りおもちゃコーナー」では、来場した子どもたちが目をキラキラ輝かせて遊んでいました。中には、興味深そうにおもちゃを手にとる大人の方もいらっしゃって、「どうやって作ったんですか」「保育園にはこんな作りおもちゃがあるんですね」と感心されたようにおっしゃっていました。



「親子ふれあいコーナー」は今年も大人気。親子で簡単に作れる「紙鉄砲」や「紙コップけん玉」を作って遊んだり、折り紙やお絵かきで遊んだり、ショッピングの合間にホッと一息つく親子連れで大盛況でした。

「子育て相談コーナー」では、保育園の入園のことや子育てのことなどのご質問に、保育園の園長先生方がお応えしました。身長・体重を測るブースでは、「大きくなったね」と親御さんに喜んでいただきました。



福岡市保育連盟のキャラクター「すまいるん」が登場すると、子どもたちが握手や撮影に集まって来ました。

「DVD放映コーナー」では、福岡市保育士会からDVD「保育所は、命を育み、学ぶ意欲を育てます」を放映し、保育園の一日の様子はもちろん、養護と教育を一体的に行っている保育の様子をご紹介します。足を止めて見てくださる方も多く、保育園を知っていただくいい機会になりました。

☆これからも、福岡市認可保育所・保育園に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

笑顔 あふれる 保育園

「ひなまつり」

井尻保育園

南区

1年間、暗い小さな箱の中に入っていたおひなさまは、春が来るのをずっと待っていました。保育園では、まず年長児がひな人形をひとつひとつ大切に箱の中から取り出して飾ります。おだいりさまとおひなさまをどう置くのか、多種多様なお道具をどう配置するのかなど先生達も大変ですがそれぞれの意味を伝えながら、飾っています。おひなさまもやっと、元気な子ども達の顔が見れてとても嬉しそうです。

3月3日ひな祭りは、260名の園児と職員がホールに集まります。「ひなまつりの由来」をひとつひとつ大切に紹介します。それからみんなでおひなさまを見ながら「うれしいひなまつり」を歌います。クラス毎に0歳児からステージで歌や手遊びをして最後に年長児53名が歌“世界がひとつになるまで”と、合奏“聖者の行進”を披露します。おひなさまも子ども達のかわいい歌声を嬉しそうに聞いているようですね。生まれてから今まで成長した喜びを感謝しながら今年1年も健やかに成長しますようにと願います。



お土産にひなあられを持ち帰り、家族で食べながら、1年間の健康安全を願っています。

伝統行事やしきたりは、古くから伝わる大切な意味があるものです。伝統の継承が難しい時代だからこそ保育園ではきちんと伝えていきたいと思っています。

「卒園式」

まごころ保育園

東区

まごころ保育園の卒園式はおそらくごく一般的な卒園式だと思います。年中の園児も参加して職員と共に卒園児を祝福します。開式 30分前からホールでスライドショーを上映しています。毎年1月頃から作成に取り掛かります。子どもたちの写真が出てくると保護者から歓声があ



がり、作ってよかったなと思います。時々保護者から販売してくださいと言われますが、お断りしています。この一瞬のために作るのが私は好きなのです。頑固者だと言われても買っていきます。それはさておきスライド

ショーの余韻が残る中、式が始まります。ホールのステージに立ち、卒園証書を受け取る子ども達の姿を見ると、毎日顔を会わせていたこの子たちと会えなくなる淋しさと、あんなに幼かった子達がよくぞここまで大きくなったなという喜びでいっぱいになります。0才児クラスの赤ちゃんの頃から来ていたらなおのこと、感慨深いものがあります。お母さんと離れたくないと泣いていたあの子。先生にずっとおんぶしてもらっていたあの子……。たくさんの思い出がこみ上げてきます。

最後に、未来へはばたくすべての子どもたちにエールを送ります。「フレー、フレー、みんな！」応援しています！



「伝承遊び『凧』」

隅田保育園

博多区



月に1度、伝承遊びを行っています。伝承遊びの師匠である齊籐さん（元公民館長、隅田町内会の方）と一緒に1月は凧作り。組んだ平竹に、墨と絵の具で描いた和紙を貼り、千枚通しで穴を開け、凧糸を通したり結んだり日頃使わない材料や道具を使っての作業に真剣に取り組む

子ども達。「ここ持ってくる？」と友だちと協力する場面も見られます。最初から最後まで、自分で作り上げた自慢の凧を持って、いざ御笠川へ。「よ～し風が吹いてきた！」上手に凧糸を操り、凧を風に乗せながら、だんだんと持ち手を伸ばしていきます。時には凧糸から手を放してしまい、凧が飛んでいくなんていうハプニングも。「先生！僕のどんどん上がる！」と自ら操作し、空高く舞う凧あげを楽しみました。尾っぽが軽すぎであがらない凧には、土手に生えているヨモギの葉を付ける齊藤さんに固定観念にとらわれない物の考え方を学びました。



「豆まき(節分)」

早良区

豊庄保育園

「鬼は外、福は内!」の大きな声が保育園中に響き渡ります。今日は節分。暦の上では次の日から春を迎える日なのですが、空気はまだひんやりしています。子どもたちは「今日はこわい鬼が保育園に出る」とわかっているのか、朝からそわそわ状態。先生が節分の由来をみんなに話し、やがてやって来る鬼に負けないように、みんなで「豆まき」の歌を大きな声を出して歌います。そして、「鬼は外、福は内!」とこれまた大きな声を出しながら豆をまく練習をして、鬼の登場に備えます。太鼓がどんどんと保育園に鳴り響き、いよいよ鬼が登場。赤鬼とみどり鬼です。2匹の鬼は金棒を振り回しながら、園庭の中を駆け回ります。かなり怖い顔をした鬼で、子どもたちは園庭を逃げ回りますが、中には勇気を出して立ち向かう強者も。毎年、立春を迎える保育園の大事な行事です。



「いもほり遠足」

中央区

新星保育園

1年に数回ある遠足の中でも子どもたちがとても楽しみにしているのが10月の「いもほり遠足」です。3歳以上児が大型バスで西区今津の芋畑へ行きます。3歳児にとっては保護者と一緒に行かない初めての遠足で、はりきって朝5時に起きてしまった子、普段は甘えて持たないリュックをこの日ばかりは自分で背負い得意顔の子など、楽しみでたまらないという気持ちを満面の笑みと全身で表しながら登園して来ます。

約50分間のバスの旅は、歌ったりクイズに答えたり車窓から見える景色を楽しんだりしているとあっという間です。芋畑に到着すると早速芋掘り開始。砂遊び用とは違う使い慣れない園芸用の重いスコップで、はじめのうちは無言ですが土の中から芋の紫色が見えると「あったー!!」とあちこちから歓声が上がり始め、それから「先生見てー!」「掘れたよ!」とそれはそれは賑やかです。中には芋より土の中から出てきた何かの幼虫に夢中の子も。

芋掘りの後は近くの公園へ移動するのですが、少々疲れ気味の3歳児の手を5歳児がしっかり引いて歩きます。家から持って来た手作り弁当を食べて元気が回復した子どもたちは芝生広場で走り回って遊び、帰りのバスではぐっすり眠ります。お迎えの時間には「いっぱい掘ったよ!」「じゃあ今日は天ぷらにしようか」「芋ご飯もして〜」と楽しい会話が飛び交います。



「勤労感謝の日」

西区

めぐみ保育園

11月の勤労感謝の日に、近所の商店街にプレゼントを持っていきます。このころから子どもたちの遊びに少しずつ変化が見え、ままごと遊びで近所の商店街の店が登場してきます。

子どもたちは近所の商店を思い出しながら、毎朝開店準備に精を出しています。パン屋、すし屋、弁当屋など少しずつ増えていき、さながら本物の商店街のようになっていきます。しばらくその遊びが続き、「いらっしゃいませ」のあいさつも様になり、商品も日に日に増えていきます。未満児クラスでは言葉でのやり取りが活発になり、眺めているだけでとても面白いです。

冬のある日、園庭でもお店屋さんごっこが始まりました。近くで「おうちごっこ」をしている子どもたちがその店に買い物に行きます。大型店舗も登場して園庭の草をちぎって野菜として売ったりしています。散歩に行けばお店屋さんの研究です。職員が作った衣装も少しずつ増えていき、室内、園庭の両方で今後の展開が楽しみです。



「お別れパーティー」

城南区

田島保育園

田島保育園では卒園式の二週間ほど前に「お別れパーティー」を行います。最初はゲーム大会。卒園する年長児と在園児と一緒にゲームをします。二歳児とは電車ごっこ、三歳児とはボール運びゲーム、四歳児とはお腹にボールを挟んで運ぶゲームをします。年長児は小さい園児の走る速さや歩幅に合わせてするなど、年長児としての気配りや優しさを見せてくれます。ゲームの最後は先生チーム対年長児のドッジボール真剣試合です。先生チームが勝つと「もう一回!」とリクエスト。年長児が勝つと、保育園への置き土産かと思うくらい大きなかちどきが響き渡ります。閉会式では、在園児や先生から手作りのプレゼントをもらい、年長児は大喜びです。給食は園児達が大好きなメニューを並べたバイキング。最後の思い出に何回もおかわりする子が続出です。小学校にあがる年長児の成長した姿に喜びを感じながら、とても思い出になる時間を過ごします。



私が薦める絵本

「じゃあじゃあびりびり」

作・絵 まついのりこ

出版社 偕成社



みなさん、一度は目にした事のある絵本だと思いませんか。「じど

ぶーぶーぶー」。「かみびりびりびりびりびりびり」沢山の擬音語とはつきりした絵がわくわくさせてくれます。実は、この絵本手遊び歌は、ちよきばーのリズムに合わせて表紙から二回ずつ歌っていくとじゃあじゃあびりびり(繰り返す)じどーしゃぶー(繰り返す)いぬわんわん(繰り返す)みずじゃあじゃあ(繰り返す)ほらピツタリと合うんです。0歳児クラスでは、おむつ交換時に歌うと動きが止まり耳を澄ませ、次第に擬音だけ一緒に発するようになります。一歳児クラスでは、本のページをめくるとみんなで大合唱しています。発語を促すのにひと役かたつくれる絵本です。「おしまいまたね」で終わるのも子ども心に納得がいくようです。ぜひ、みなさんの園の可愛い赤ちゃん達に読んで下さい。(谷口美香)

「かみさまからのおくりもの」

作・絵 ひぐちみちこ

出版社 こぐま社



初めてこの絵本を読んだのは、娘との寝る前の絵本読みの時間でした。『あかちゃんがかみ

みさまからのおくりものは、おんじが、はこんでくるのです。これが冒頭の文章です。読んで後、〇ちゃんをよく食べるをもらって元気な子になったね。よく笑うをもらって、みんなを幸せな気持ちにしてくれるね。優しいをもらったから、こんなに妹を可愛がってくれて。と、話しながら、嬉しそうに娘の笑顔に涙がぼろぼろでできたのを覚えています。

それから、出産祝いでプレゼントしたり、保育園の誕生日会やクリスマス会、小学校のお話し会でも読んできました。小学校では、一人ひとりにその子の素敵などところを書いたカードを配り、読み合う時間を過ごしました。照れながらも、お互いの顔を見ながら、にやにやして、なんだか嬉しそうでした。保育士として一人ひとりの園児が、保護者として我が子が、そして子どもたちにとっては、自分

と、友達の存在がとても愛おしくなり、生まれてくれて本当に良かった!と、心から思える時間を過ごせる、あたたかい絵本です。(春田由佳)

作・絵 なかやみわ



新品のクレヨンたちが大きな画用紙を見つけて、次々に絵を描く物語。ペー

ジをめぐる毎に、花、木、街などが色鮮やかに描かれていき、どんな絵ができるんだろう、とワクワクしながら絵本の世界に引き込まれます。くろくんだけが仲間はずれにされるシーンでは、くろくん共感した子どもたちも寂しい表情に。ところが、くろくんがいたからこそ出来た大輪の花火が描かれると、子どもたちの表情もパツと明るくなり、目を輝かせて見てくれます。みんな違っていてそれぞれの良さがあることや、仲良く遊んだら楽しいことなど、大切な気持ちに響きます。そして、絵を描く楽しさも伝わる、お気に入りの一冊です。(深谷枝里)

秋の叙勲 受章

瑞宝双光章 受章

筑紫ヶ丘保育園 園長 池尻千鶴子



広い園庭に大きなポプラの木と毎年美味しい実をつけるビワの木が自慢の筑紫ヶ丘保育園です。昭和四十五年開園して五十一年近くになりました。「人にやさしく意欲ある子」に

育って欲しいとの願いを込めて保育を続けて来ました。昨年秋の叙勲で「瑞宝双光章」を受章しこれまで支えていただいた多くの園長先生、地域の皆様、職員に感謝でいっぱいです。この受賞を励みとして、これからも未来ある子ども達の保育と教育に携わっていききたいと思っております。

瑞宝単光章 受章

東住吉保育園 園長 上野佳津子



この度は、身に余る叙勲を受け、皆様方のお支えあればこそおかげだと深く感謝しております。私が小学生の時に保育園を始めた母の勧めで保育士のお道に入りの度の受章につながりました。

また、筑紫ヶ丘保育園の創立時からお世話になったこともあり池尻園長先生と同じ世に受章できたことは、章は並ぶくもありませんが入江先生(先代理事長・園長先生)の指導きではないかと不思議な縁を感じました。今後の保育界がどのように変革するのか追いつけない不安を抱えながらももう少し少本当にありがとうございました。

瑞宝単光章 受章

多々良保育園 副園長 大神千加子



この度平成二十八年秋の叙勲に際し園長も身に余る瑞宝単光章の栄誉を頂き、驚きと喜びを感じています。多くの方々の御支援と御指導のおかげで四

十数年保育の仕事をしてこられたことに感謝し、これからは新たな気持ちで自分を見つめ直し、傍にいますだけで子供が安らぎを覚えられるような保育の充実。更に尚一層の努力を重ねて参りたいと思

厚生労働大臣 表彰

西区千里保育園 主任保育士 家宇治瑞枝



この度、社会福祉功労者に対する表彰状を頂き誠にありがとうございます。お陰様で、千里保育園に就職して四十数年という月日が経ちました。

これらひとえに、園長先生や副園長先生のご指導とご配慮のお陰と心から感謝致しております。又、保育士の皆さんの協力とスタッフの輪が出来たこと、子どもひとり一人を大切にしていることなど沢山のことが出来ました。長い間勤めています、悩みも多々ありました。そんな時、果立った子どもたちからのお便りや、園への訪問で疲れもやわらき、喜びと笑顔に変わっていききました。今後も、お忙しい保護者の思いに寄り添いながら保育に専念していききたいと思

偶田保育園 施設長 木林純子



お陰様にて、この度厚生労働大臣表彰を受けることが出来ました。四十三年間、保育一筋に、歩いて来たことに對するご褒美と受け取ってよいのでしょうか。

西新保育園 保育士 田中ひろ子



子どもが大好きで進んだ保育士の道、「石の上にも三年」何があっても続けようと思つたあの日から、四十二年が過ぎようとしております。こんなに長い間保育士を続けることができたのも、園長先生をはじめ、周りの皆様の支えがあったからこそ、心より感謝しております。私にとりまして今回の受賞は、身に余るものでございます。ありがとうございます。

今更で、たくさんの方々に教えられ、導かれ、ご支援いただきましたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。現在は、十年前に公立の民営化を受けて、偶田保育園を運営しております。ここは、自然環境に恵まれ、都会のオアシス的な観を呈しています。その中で日本の伝統文化や伝承遊びを取り入れながら保育を展開しています。受賞を期にさらに、身を引締め保護者や子ども達に愛され、安心して利用していただける保育園に、そして職員には働きやすい職場環境づくりに邁進していききたいと思

「養成校との意見交換会」

広報調査部 理事 井上 正志

福岡市では待機児童の増加に伴い、新設園の開設や既存園の増築で大幅な定員増が図られてきました。当然ながら人材の需給関係が崩れ、保育士不足が顕著になっていきます。

この課題を解決すべく福岡市保育協会は広報調査部と青年部が中心となり平成二十七年十月国際ホールで初めて保育園ブースを設置した就職フェアを行いました。



これより記録の一部を紹介いたします。

・理事長挨拶 古賀理事長

「近年の保育士不足については、マスコミ等でも取り上げられており、待機児童も年々増え、市の施設整備も図られている。認可保育園の数は、三年前には百八十一ヶ園だったのが、今年四月には二百十一ヶ園となり、来年には十数ヶ園増える予定。小規模も増えている。各園の採用状況としてもなかなか集まらず、苦慮しているところ。昨年からはじめた就職フェアも、六月と九月に開催できた。夏場には、近隣のみだが、養成校訪問も福岡市と一緒にっており、情報交換している。今日は意見交換の場としたい。」

・福岡市の状況

指導監査課 高地係長

「今年度も保育園の定員増をはかり、一千八百人の定員増、それに伴い二百七十人の保育士が必要と試算している。保育士・保育所支援センターの運営や相談会七回開催、市内と太宰府市にある養成校訪問、潜在保育士への貸付事業や無料相談窓口設置等している。様々な理由により早期退職者が出てくることもある。園側には、若い職員を育ててほしい。」

・就職フェアの報告

青年部 高田部長

「全体へ話をする説明会は行っていたが、個別ブースでお話しする就職フェアは昨年九月に初めて開催。非常に好評だった。今年には就職フェアを二回開催したところ、一回目の六月には三百名、二回目の九月には二百名程度の参加があった。時期や場所について、ご意見をお聞かせいただきたい。ブースの出し方や園数についても、何かあれば教えていただきたい。」

1. 養成校の先生方から

「昨年の就職者が幼稚園二十三・三％、保育園六十三・三％と保育園への就職者が多い。フェア時期については、八月半ばが保育実習、九月半ばが幼稚園実習となるため、九月は参加が少ない。七月に新人保育者研修会を行い、現場でどのような意見交換の場としている。一年目はブレッシヤーを感じたり、人間関係の構築ができなかつたりする。そのため離職率を減らそうと取り組んでいる。長い目で見ていただきたい。就職試験のピアノが緊張するとの意見が多い。課題曲を設定して欲しい。今回の意見交換会については、とても良い取り組みだと思うが、できれば事前に質問状を取って、練った意見を持ち寄って報告する場としたり、もっと良いのではないかと。」



2. フェア時期は、六月施設実習、九月幼稚園実習。園ごとにブースを展開していると、学生も参考にしやすい。福岡市で一人暮らしが出来るかどうか。奨学金の返済を控えている学生も多い。内定後の研修については、二月まで試験や行事等もあるため、配慮していただきたい。

3. フェアについては、六月幼稚園実習、八月保育園・施設実習、九月幼稚園二回目の実習がある。フェアが実習とは異なるが、他校の学生も来て、刺激になるだろうとも思うため、行きなさいと伝えている。一学年百名のうち、半数が県外の学生。地元に戻る傾向が強い。他県の方が来られて、ぜひ地元にと話される。就職試験のピアノについては、課題曲なのか、ピアノ曲なのか、子どもたちと歌える曲なのか、詳細を書いて欲しい。早期退職した卒業生は、社会人の基礎力が身につけていないという問題も大きいと感じている。しっかりと育てたい。

4. フェアについては、九月は実習中。六月のブースはとても参考になっている。二百三十一名卒業だが、七割が県外。市内学生は二十名。地元をすすめている。十一月下旬ごろに地元をあきらめて福岡市内の就職を考える学生もいる。早期退職者が数名出た。メンタルの弱い学生もいるが、温かい目で育てて欲しい。高校との連携が大事だと思っている。保育を目指すが少ない。

福岡市では待機児童の増加に伴い、新設園の開設や既存園の増築で大幅な定員増が図られてきました。当然ながら人材の需給関係が崩れ、保育士不足が顕著になっていきます。この課題を解決すべく福岡市保育協会は広報調査部と青年部が中心となり平成二十七年十月国際ホールで初めて保育園ブースを設置した就職フェアを行いました。今年度はアクロス福岡にて六月に就職説明会と就職フェア、九月に就職フェアを行いました。多くの保育士を目指す学生や養成校の先生方が参加されました。その場で先生方と個別に話す機会がありました。養成校と養成校の先生方との意見交換会をしたらどうかという提案があり、十数年ぶりに十一月二十二日(火)すし幸にて会を開催しました。

リレー回想

幸せに満ち溢れた笑顔のために

大井保育園 園長 有松 徹



日の出勤を含め月間平均三八〇時間以上は職場いました。しかし不思議と授業の準備にはいくら時間を割いても「早く終わりたい」「準備を省きたい」とは思いませんでした。この時間が子どもたちの笑顔や学習の理解度に還元されると思うと、そのことが自分の楽しみであることを否定できなかったからです。その思いは職場が保育園に移っても変わりません。

念から脱却していきました。今年度から園長としての勤務がスタートしましたが、実のところ、毎日「今日は何の仕事が完了したっけ?」「みたいな日がたくさんあります。しかしまずは施設長として施設の保育理念を確立し、職員と一緒に子どもと保護者に関われる喜びとやりがいと共有していくことが今の私にできる役割だと思えます。

ていくことこそが私の描く理想です。また、保育士という資格に対して世間で取り沙汰されるものが多くなりましたが、「保育士ってやりがいがあるんだよ」と口先で語るだけではなく、私自身が子どもの姿にほれ込み、保育環境に没頭し、日々の気づきを理念として取り入れていきたいと思えます。きっとそれが子どもや保護者の笑顔につながっていくのだと思えます。

寒空の下、園庭を駆け回る子どもたちの笑顔、保護者との世間話、職員との談笑、関係業者とのやり取り、外部研修、数字とのにらめっこ、そして保育業界の人間味のある先輩や仲間たちとのつながり。それらが私の日々の生きがいです。

今年度より大井保育園で園長を務めております有松徹です。私は平成十一年より福岡市職員として市内小学校で勤務し、まごころ保育園分園を経て現在の大井保育園勤務に至りました。小学校勤務時代は授業や会議を終えて、午後六時から学年での打ち合わせや翌日以降の授業の準備がスタートしてしまいましたので、土

日の出勤を含め月間平均三八〇時間以上は職場いました。しかし不思議と授業の準備にはいくら時間を割いても「早く終わりたい」「準備を省きたい」とは思いませんでした。この時間が子どもたちの笑顔や学習の理解度に還元されると思うと、そのことが自分の楽しみであることを否定できなかったからです。その思いは職場が保育園に移っても変わりません。



編集後記

年の初めに十二支の物語を読みました。そこにはこんなことが書かれていました。

「神様が動物たちに、『正月の朝、御殿の門に来るように。早く来たものから十二番まで順番に一年ずつその年の大将にしてやる』というお触れを出しました。ウシは歩くのが遅いので前晩から出かけることにし、それを聞いたネズミはこっそりウシの背中に飛び乗り、門が開くと同時に飛び込み一番乗り。ウシは二番目になり、その後、次々と動物たちが到着するのですが、九番目をサルとイヌがけんかとなり、止めたに入ったトリがその間に入り、十番目の動物になりました。」と。

今年はずいぶん。争い事を仲裁したトリにあやかり、穏やかな年であってほしいと思えます。しかし、ちょっと気になることがあります。それは、暦の「ト」は「酉」と書き、鳥や鶏とは意味が異なるため「御利益」はあるのかと心配になったのです。「酉」の本来的意味は、「酒の壺を形どったもの」です。「酉」に「さんずい」をつけると「酒」、「寸」をつけると「酎」。酒に関する漢字がたくさんあります。酒を飲んで心配事を吹き飛ばし、ご機嫌な日々ばかりを過ごせればいいのですが、酩酊は禁物です。酔って酷い目に遭わないようにくれぐれも慎重に。



(西尾)